

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
青葉区	五橋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元年10月1日時点での高齢者数6,357人、高齢化率20.87%。</li> <li>・独居高齢者の割合が高く、住環境も集合住宅が多いため実態把握が難しい。</li> <li>・集える場所の確保が困難であるため、住民主体の活動拠点づくりが課題である</li> <li>・老人クラブ(花壇)や好日庵で週1回実施していた運動サロン(米ヶ袋)が活動中止となるため、高齢者が身近な地域で集える場が減少している。</li> <li>・住民同士の支え合いの意識が低い地域がある。</li> <li>・圏域の介護支援専門員に働きかけを行っても、研修会や交流会への参加がなく、支援が難しい。</li> </ul>	<p>【健康で生きがいを感じながら活躍し続けられるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米ヶ袋地区に運動自主グループの立ち上げを目指す。</li> <li>・花壇・大手町体操の会が継続して活動できるようサポーターの養成を行う。</li> </ul> <p>【住み慣れた地域で暮らし続けることができるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症カフェ等において当事者が活動できる場を設定し、認知症高齢者への理解を深めつつ、介護者への支援を継続する。</li> <li>・地域の介護支援専門員に対し、「個別ケア会議」への周知を強化し、個別の課題解決を積み重ねることで地域課題解決に向けた取り組みを実施する。</li> <li>・包括圏域会議において、小学校区ごとの地域データを示し、住民と共に地域課題を共有し、解決に向けた取り組みを実施する。</li> <li>・「五橋地区医療・介護の連携の会」にケアマネジャーが参加できる仕組みを作り、医療と連携が図りやすい環境を整備する。</li> <li>・青葉区事務所CSW、第1層生活支援コーディネーターと連携し、青葉土樋町内会・東北学院大学との連携事業を継続する。住民アンケートで地域活動に意欲的な住民が、地域活動の担い手になれるよう取り組む。</li> </ul>
区	上杉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(2019.9.30現在)高齢者数4,424名、要支援認定者数305名、要介護認定者数487名</li> <li>・分譲マンションの多くは町内会が形成されておらず、情報の周知に限界がある。</li> <li>・包括圏域と民生委員・連合町内会・地区社協の区域が異なるため各団体間の連絡調整が難しく、各団体から不満が挙がっている。</li> <li>・どの町内でも高齢化が進んでおり担い手不足が課題老人会が解散している。</li> <li>・地区に集会所が2か所しかなく且つ集会所の環境も劣悪な環境である。</li> <li>・民生委員も個別訪問できていないことが多い。</li> </ul>	<p>地域包括ケアシステムの深化・推進にあたり圏域内の住民との継続的な関わりを維持し、取り巻く環境のPDCAサイクルを通しての機能を果たす。個別ケースの支援の中でも自立支援に地域支援という観点も念頭に置いての質の高いマネジメントを展開していくものとする。</p> <p>包括事業の広域での業務が増大しており、センター職員の役割を明確にし、協力体制のさらなる構築とチームケアであること意識付けを強くするため年間での業務管理を実施することとする。</p> <p>地域共生社会の実現に向け、福祉全体を一体的にとらえ、必要機関と連携を図り地域づくりや個別課題の対応を行う。</p> <p>アウトリーチの中で伴走型支援を用いて継続的な支援を行う。</p>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
青葉区	国見	<p>・高齢者からの相談で訪問すると、閉じこもり、知的・精神障害の子どもの存在、また、経済的自立ができていない場合や共依存的な関係など、課題が複合的にあり、介入することが難しく時間も要する相談が増加している。</p> <p>・圏域内に精神科有床病院や開業医も多くあり65歳以上の精神障害者の居住も多い。精神症状が大きい場合、高齢者福祉サービスだけで担うことは困難。65歳到達とともに介護保険移行と言われるが、本人にとっても制度横断による支援が継続的に必要。</p> <p>・圏域は市中心部からやや西部であるが、都市部のためマンションが増加傾向。マンションによっては町内連合会に入会していないことや、家族と同居の場合だと、高齢者についての情報を民生委員・福祉委員も把握しきれていない。</p> <p>・町内会役員が毎年変わる地区があり、情報交換や共有が図りにくく連合町内会内での横の繋がりが希薄。また、担い手の減少や町内会長不在の町内会もあり、町内会行事も行われていない地区もある。圏域内は町内会数の多さ(八幡地区:33町内会、国見地区:21町内会、貝ヶ森地区:8町内会計63町内会)や、単位町内会ごとの規約もあり連合町内会からの働きかけは難しい。</p> <p>・新しい造成地に戸建てが建設され町内会ができたが、地区内で造成時の騒動が尾を引き住民感情が緩和されず、既存町内会との交流が図れてない。</p> <p>・町内会長により地域づくりに対する考え方の温度差があり、地区や町内会によっては新たな活動の創設やボランティア活動などに対する意識は消極的。また、地域に向けた認知症サポーター養成講座開催後のアンケートでも、ボランティア活動に対する意識は消極的。</p>	<p>高齢者が、住みなれた地域で、尊厳あるその人らしい生活を継続する事ができるように、また出来るだけ要介護状態にならないような予防対策から、高齢者の状態に応じた介護サービスや医療サービスまで、様々なサービスを高齢者の状態の変化に応じ切れ目なく提供することができるように包括的な支援を行う。そのため地域に親しまれ、しなやかな対応とさりげなく手を差しのべられる身近な総合相談支援窓口とし、高齢者の心身の健康維持、保健、福祉、医療の向上、生活の安定のために必要な援助、支援を包括的に行う公正、中立かつ、公平である中核機関であることを目指す。</p> <p><b>【重点目標】</b></p> <p>1)地域・関係機関との連携・ネットワークづくり                  地域包括ケアシステムの構築に向けて、圏域内の医療・介護・予防・生活・住まいにかかわる各関係機関や各種団体との連携を強化し、多職種連携のもと地域包括支援ネットワークの維持・強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内の各小学校区において継続している地区圏域会議や個別ケア会議の開催を通し、関係者間での情報の整理と共有を図り、多職種との連携による支援体制作りを目指す。併せて、高齢者の支援にかかわる地域の社会資源、及び住民ニーズの把握から地域での課題を抽出し、解決に向けた検討や取組みを推進する。</li> <li>・医療・介護の連携を図るために、医療機関と協同で発足させた連携の会の継続に向けて、会の目的を明確にし企画・運営を共同で行う。併せて、医療機関と介護事業所などが、連携の会を通して情報交換や共有を図り、相互理解と更なる連携の強化へ繋げる。</li> </ul> <p>2)認知症対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症初期集中対応チーム員と協同し早期対応に繋げるとともに、関係機関との連携体制構築に取組む。</li> <li>・開催している3ヶ所の認知症カフェについては、各地域団体との協同運営の下、目的に添い地域の居場所としての機能も併せた企画・運営を継続する。また、地域住民や地域団体へ向けて、認知症カフェでの講話、認知症サポーター養成講座開催、パートナー講座の目的の紹介などを通し、認知症についての正しい知識の理解と普及・啓発を行い、地域で認知症の人を見守る意識の醸成を図るとともに、見守り見守られる地域づくりに向けた取組みを検討していく。</li> </ul> <p>3)介護予防の推進</p> <p>高齢者一人ひとり自分の持っている力や、地域との繋がりを大切に活かしながら、介護予防と社会参加ができる福祉の地域づくりに向けて地域と共に推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが介護予防に取り組むことの重要性や、地域づくりやボランティアなどの社会参加が、生きがいづくりや介護予防につながることなど、さまざまな地域活動へ出向いた場面で普及・啓発を行う。</li> <li>・地域の身近なところで活動しているグループへの支援や新たな自主グループの創設など、介護予防に資する取組みとなるように、関係団体と共に担い手の育成や活動継続の支援を行う。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
青葉区	木町通	<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木町通小学校区は仙台市中心部に位置し、セキュリティシステムのある高層マンションが立ち並んでおり、住民同士の交流が希薄である。マンションによっては自治会のみや自治会そのものがなく町内会に加入していないところも多く、情報収集や情報伝達の妨げとなっている。一方では、木町通市民センター・児童館合同主催の運営懇談会が年1回、市民センター・児童館個別の運営懇談会が年1回ずつ定期的に開催されており、子供から高齢者まで様々な団体の交流を図り、連携を深化させている。</li> <li>・平成29年度より開始した「木町地区ネットワークささえの輪」では平成30年度から町内会にも参加していただきネットワークを広げつつあったが、今年度は担当職員変更等のセンターの都合で、継続して開催することができなかった。</li> <li>・平成31年度は連合町内会会長と民児協会会長が交代、令和2年度は地区社協会長等の交代が予測されている。</li> <li>・立町小学校区は、国分町などの商業地を含めた仙台市中心部の立町・大町地域と川内から青葉山山頂にある荒巻字青葉の特色が違う2つの地域を含んでいる。川内地区の高齢化率は48.5%と高い地域もあり、古くからのサロン活動が行われるなど地域活動が活発である。立町・大町地区は商業地が多く、町内会や地区社協等の地縁組織の活動も、住民数によってばらつきがある。</li> <li>・立町は圏域内で介護予防支援・介護予防ケアマネジメントの利用が20%と一番高く、介護予防の必要性が高い地域であるため様々な工夫を行っているが、介護予防教室等の参加率が低い状況が続いている。</li> <li>・通町小学校区には27の町内会があり、そのうち7つの町内会(活動休止中が1つあり)の一部が圏域となっている。通町小学校での防災訓練への参加やサロンでの講話、個別のケースを通じて地域住民とのネットワークを構築している。平成29年度に個別ケア会議を開催したことで、地域住民による見守り活動の活発化が図られ、気になる高齢者に関して地域住民からセンターに相談が入る仕組みが以前よりもできてきている。</li> <li>・圏域内には要介護認定者が470名、要支援認定者が323名、事業対象者が9名(令和元年10月現在)。令和元年10月の給付管理数は介護予防支援が115件、介護予防ケアマネジメントが133件で合計248件。利用率は74.7%となっており、昨年度より4.5%増えている。</li> <li>・圏域内には数多くの高層マンション等の集合住宅があることから、木町通包括独自の「集合住宅やマンション管理人等への戸別訪問活動」を継続している。その情報については町内会ごとのマップに落とし込み、見える化を図っている。今年度は未整理のままとなっていた情報を整理することができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム構築に向け、支えあいの地域づくりを進めていく必要性が高まっている。その場合町内会が重要な役割を果たすと考えられるが、消滅した町内会エリアの住民や、自治会もなく町内会にも加入していない集合住宅に居住している住民が多い地域であり、当該住民への対応が困難な状況となっていること。</li> <li>・地域包括ケアシステム構築のため、包括圏域会議や個別ケア会議等の開催が必要であるが、今年度は開催ができていないこと。</li> <li>・町内会を単位として地域資源の情報収集やセンターの情報発信を行っているが、町内会が40か所近くと数が多いため時間を要し、発信した情報が班長までの回覧にとどまっているケースもある。</li> <li>・担当圏域が仙台市の中心部を含んでいるため、病院をはじめとする高齢者に関わる様々な機関が数多く存在する。このため情報収集やネットワーク構築・連携強化に時間を要していること。</li> <li>・介護予防の必要性が高い立町在住の高齢者へのアプローチができていないこと。</li> <li>・今年度は職員の交代などセンターの都合により、地域支援事業を継続的に行うことができなかったこと。</li> <li>・職員の定着とセンター内の業務整理(役割分担・効率化・優先順位の共有等)が必要なこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者数及び認知症高齢者数の増加や社会情勢の変化に伴い重層的な課題のある相談が増えているなかで、センターのマンパワー不足と職員の定着、業務効率化の必要性等が求められている。個別ケースの丁寧な対応を心掛けながら効率的かつ効果的な事業展開を念頭に置き、センターとしての機能が果たせるように、現在行っている事業の確実な実施と充実を図ることで、重点取組項目である地域・関係機関との連携・ネットワークづくり、認知症対策の推進、介護予防の推進に取り組む。</li> <li>・平成29年度から開始した『木町地区ネットワークささえの輪』について、昨年度未開催となった。各地縁組織の体制が変化するため、地域の福祉意識の醸成につながるよう今年度は確実に開催し、地域包括ケアシステム構築につながるよう取り組む。</li> <li>・包括圏域会議・個別ケア会議を実施し、地域課題の把握とネットワーク強化を図り、重層化した課題解決につなげられるよう取り組む。</li> <li>・認知症に関する相談が増えており、『木町通包括認知症サポート団体推進事業』を充実させ、地域で認知症高齢者等を見守り・支えられる体制の構築を図り、地域版認知症ケアパス『ささえの輪』の内容充実に取り組む。</li> <li>・圏域内にはマンションが多く、周囲から孤立している高齢者に対して認知症等が原因と思われる近隣からのトラブルの相談が年々増加しており、平成27年度から開始している『集合住宅やマンション管理人等への戸別訪問活動』によるセンター周知と情報収集を引き続き継続する。</li> <li>・把握した地域の社会資源や様々な情報については、職員間での情報共有を行うとともに、活用しやすいような整備を継続実施しており、平成27年度からは町内会エリア毎のマップ作成を開始し、今後も内容の充実を図ると共に、今年度はその情報を地域住民や関係機関へ提供できる仕組み作りの実現に向けて取り組む。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
青葉	双葉ヶ丘	<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古い住宅地。高齢化率は31%、後期高齢化率約18%と高い。その反面、古い住宅の建て替えが増え、若い世代の家庭が増えてきている地区がある。</li> <li>地形的には坂道が多く、住宅街の中は道路が狭いところも多くある。</li> <li>地区社協、民児協、連合町内会は概ね1つ。20単位町内会あり。</li> <li>地域活動の中心は、80代前後と高齢化している。</li> <li>介護予防や認知症に関する意識高く、自主グループなどサロンは約16ある。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動の担い手が高齢化。次世代の担い手発掘、引き継ぎが難しい</li> <li>お互い様意識、在宅生活の限界の認識の差の違い</li> <li>家族介護、フォーマルサービスへの期待度・依存度が高く「地域で支え合う」という考えが浸透しにくい。</li> <li>社会資源開発に向けての働きかけ方法に課題を感じていたが少しずつ考えに変化がみられる町内会や団体は増えている感触がある。</li> </ul>	<p>○高齢者がその尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指します。</p> <p><b>【重点目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>地域・関係機関との連携・ネットワークづくり             <ul style="list-style-type: none"> <li>医療、福祉、教育関連機関などとの連携を強化し地域包括支援ネットワークの維持、強化を行う。</li> <li>地域で「互いに支える」意識の醸成、インフォーマルサービスおよび住民主体の支え合い活動の拡充支援。</li> <li>住民主体の活動について前向きに考え取り組んでいる組織に働きかけ、地域活動のイメージづくりを行う。</li> <li>地域の防災関係団体と連携し、災害時対応にスムーズに繋げられるよう平時の見守り活動体制について協議を行い互いに協力し対応する。</li> </ul> </li> <li>認知症施策の推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症に関する正しい知識と理解の普及啓発を行い、地域で認知症の人を見守る意識の醸成を図るとともに、地域における支え合いが充実するよう取り組む。</li> </ul> </li> <li>介護予防の推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>自らが介護予防に取り組むことの重要性や、社会参加がいきがいづくり・介護予防につながること等の普及啓発を行い、介護予防の理念の浸透を図る。</li> <li>地域の身近なところで介護予防に資する取り組みができるよう、関係機関、団体と連携し、活動の機会や場の確保、担い手の育成、活動継続の支援を行う。</li> </ul> </li> </ol>
青葉区	葉山	<p>担当圏域となっている三条中学校区は荒巻小学校区、通町小学校区、国見小学校区、八幡小学校区の4小学校区からなる。三条中学校区の高齢化率は22.62%、市全体の23.72%とほぼ同様。要介護認定率は19.68%、市全体が18.15%に比べると高く、認定者数のうち軽度者の割合が半数以上を占めている。より積極的な介護予防の普及啓発や取り組みが必要である。</p> <p>(荒巻地区)荒巻小学校区の高齢化率は26.28%で市全体よりも高い。これまで定期的な話し合いを重ねてきたものの、連携・協同する体制構築には至っていない。</p> <p>(通町地区)通町小学校区の高齢化率は23.04%、市全体とほぼ同様だが、通町市営住宅(復興住宅)は高齢化率が約40%と高く、継続的な支援が必要。また、他地区と比べて相談件数が少ない傾向がある。</p> <p>(国見地区)国見小学校区の高齢化率は30.13%市全体よりも高い。年齢別人口構成では60～69歳人口数と20～29歳人口数が同等程度、今後も地域活動と近隣大学との連携を活かした取り組みが継続できるようにしていく。</p> <p>(八幡地区)八幡小学校区の高齢化率は23.40%、地域の実状把握が不十分のため、地域関係機関との関係性を構築していく。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域・関係機関との連携・ネットワーク作り             <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が日常生活上の支援が必要になっても安心して暮らし続けることができるよう、地域をつくる関係機関や地域住民と連携を図る</li> <li>・圏域内の居宅介護支援事業所と民生委員との研修会・情報交換会の開催</li> <li>・包括圏域会議の開催</li> </ul> </li> <li>②認知症対策の推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の人の意志が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるよう取り組む</li> <li>・認知症サポート医等を講師として介護予防教室を開催</li> <li>・チームオレンジLeaf(認知症地域支援推進チーム)の活動</li> <li>・認知症カフェのボランティアの育成</li> </ul> </li> <li>③介護予防の推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>心身ともに健康で元気に生きがいを感じながら生活できるよう、また地域の身近なところで介護予防・健康づくりに取り組むことのできる環境づくりを進める</li> <li>・地域の店舗(スーパー等)を活用して啓発する</li> <li>・新たな自主グループの立ち上げ支援とメンズサロンの開催</li> </ul> </li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
青	台原	<p>・旧城下から郊外にかけての都心隣接域に属し、小松島は昭和初期、台原・旭ヶ丘は昭和30年代以降急速に開発された戸建て住宅地と、昭和の終わりから平成にかけての高層住宅がJRや地下鉄駅近郊や幹線道路沿いに点在している。七北田丘陵の北側斜面にある台原森林公園を頂上として、そこからの狭い道、急な坂道や階段が多く、高齢者の外出に支障をもたらしている。ほぼ3つの小学校区で構成される圏域の総人口は約27,000人、内65歳以上は5,700人、高齢化率は21.24%であるが、後期高齢者数が3,061人、事業対象者・要介護・要支援認定者数1,216人は、市内トップクラスの人数となっている。(令和元年10月現在)</p> <p>・急速な超高齢化に伴い、高齢独居世帯や高齢者のみの世帯、認知症高齢者の増加が進むなか、介護予防に対する意識や認知症に対する理解の向上と、より多様な社会資源の開発、地域での高齢者の見守りの強化や、支え合いの地域づくりを推進していくことが急務と考えられる。</p>	<p>1 地域で支えあう体制づくりの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能強化専任職員を中心に地区担当の相談員と、地域課題等の情報と意識の共有、多職種連携・関係機関連携による地域包括ケアシステムの構築、センターの機能強化を進める。</li> <li>・地域アセスメントの実施(住民・関係者からのヒアリング等)から、地域住民の主体的活動の芽を育む。</li> <li>・地域(小学校区)別に個別ケア会議や包括圏域会議を行い、個別課題に関する支援の充実、地域の現状や課題の抽出、および社会資源等に関する情報の共有を図る。</li> <li>・仙台市社協青葉区事務所など関係機関や、生活圏域が重なる他地域包括支援センターとも連携して各種事業を行う。</li> </ul> <p>2 認知症当事者とその家族を地域で支えていく体制づくりの促進(認知症地域支援推進員を中心とした体制と活動の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関する基礎的な理解の普及および早期発見、支え合いの促進</li> <li>・認知症の当事者、家族、介護者、地域住民が参加しやすいカフェ等の開催支援</li> <li>・若い世代への啓発活動</li> </ul> <p>3 介護予防に積極的に取り組んでいく気運の醸成と環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室や地域の集いに参加しての、健康づくりへの働きかけ</li> <li>・介護予防に地域ぐるみで取り組む自主的活動の立ち上げおよび運営の支援</li> <li>・通所型短期集中予防サービス(元気応援教室)への参加に向けた誘導・支援</li> <li>・生活支援通所型サービスへの参加に向けた誘導・支援</li> </ul> <p>4 老人福祉センター、デイサービスセンター等併設施設との連携を密にし、併設による多機能性・連動性の強みを活かした事業展開を進める。</p>
葉	花京院	<p>【課題】</p> <p>担当圏域は6つの小学校区に分かれており高齢化率においても中江地区29%と東六地区18%と差があり、小学校区での課題や取り組みに違いがある。圏域全体の課題として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に対しての正しい認識が低い。</li> <li>・町内会活動の担い手不足や参加者の固定化がある。</li> <li>・世代間交流の機会が少ない。(一部地区では短時間の開催あり参加している)</li> <li>・1人の役員が複数の役を担うという負担が大きいとの声がある。</li> </ul> <p>今年度は若い世代にも参加声がけし圏域会議を開催、高齢者世代、若い世代とそれぞれの立場で何ができるか意見交換した。2020年3月25日反省会(予定)にて課題を明らかにし今後の取り組みを検討する。</p> <p>【東六地区の課題】</p> <p>役員の連携は図られているが民生委員に欠員が生じており地域活動の担い手不足や地区社協サロン会等の参加者が固定化している。</p> <p>【北六地区の課題】</p> <p>集会所等が少ないことから活動拠点となる場所がない。マンションや集合住宅の増加により、世帯や子供の数は増えているが町内会に未加入や活動に参加しない人も多い。</p> <p>【中江地区の課題】</p> <p>高齢化率が高く、県営住宅や庄慶会住宅などは単身高齢者が多い。役員等の担い手も不足。商店が減少し買い物など今後は生活支援の必要性が顕著となる。</p> <p>※地区の一部を担当している小松島地区・台原地区・上杉地区の課題は他担当地域包括支援センターと情報と活動を共有・連携を図っている。</p>	<p>① 親しみやすく、相談しやすく、信頼される総合相談窓口を継続していく。</p> <p>② 出張相談会、認知症カフェ、東六おしゃべりカフェ等の定期的な開催を継続し、地域高齢者の把握や課題の把握に努める。その上で開催内容の再検討を行い充実し、自発的な集まりの場を把握していく。</p> <p>③ 地域活動に積極的に参加し交流を通して顔が見える関係作りを行い情報収集、ネットワーク構築の推進を図る。</p> <p>④ 包括圏域会議を地区毎に開催し、地域の主要な立場を担う関係者と課題を明らかにし、情報共有と連携体制づくりを進めていく。</p> <p>⑤ 地域の関係者、介護支援専門員、介護サービス事業所等に対して個別ケア会議の開催を推進し、地域の課題を把握、明らかにし、多職種連携による支援体制づくりを行う。地域毎に、介護予防の取り組みを啓発し、自主的な活動の推進とサポート体制を強化する。</p>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
青葉	大沢広陵	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●広陵中学校区→過疎高齢化の地域。福祉サービスが事業中止することが続いている。社会資源不足、担い手不足、移送手段の少なさが継続的課題。地域の見守り、助け合いの意識は高いが、社会資源の不足と担い手の高齢化から対応しきれない。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・大倉→同居世帯が多く、世帯で課題を抱えるケースが多い。</li> <li>・作並、新川→同居世帯が多いが、子の世代は市街地に移転しているケースが多く、高齢夫妻、高齢の親子世帯が多い。</li> <li>・熊ヶ根→古くから居住する世帯と30年程度前から移住してきた世帯が混在。同居世帯、高齢世帯と高齢の親子世帯が混在。生活困窮世帯の相談件数が多い。</li> <li>・白沢→高齢者世帯が多いが相談件数が少なく、課題が潜在している。</li> </ul> </li> <li>●大沢中学校区→新興団地、オールドニュータウン、世代交代が始まった団地とそれぞれ特徴を持つ3つの団地を持つ。地域は住宅地と農村部に分かれており課題が二極化しやすい。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・芋沢→開拓をきっかけに移住し農業を営んでいる世帯が多い。同居世帯が多く課題を世帯で抱えているケースが多く見られる。</li> <li>・向田→孤立した地形である為、地域の課題解決能力が高い。住宅を求めて居住した世帯が多く、地縁・血縁が希薄な傾向がある。</li> <li>・みやぎ台→高齢化が進み世代交代が始まっている。比較的地価が低く、住宅を求めて新たに移住した世帯が多い。認知症、精神疾患の相談件数が最も多い。</li> <li>・高野原→震災後急激に人口増加している。若い家族の世帯に高齢者が呼び寄せられ同居を始めたケースが多く、高齢者の孤立が見られる。地域内の協力関係が構築されておらず、まとまって地域活動を行う場面が少ない。</li> <li>・赤坂→引退後新たに住居を求めて移住してきた世帯が多く、子の世代が遠隔地に住んでいるケース、支援をする家族がいないケースが多い。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「聴く」「知る」「つなぐ」を基本に要支援者、地域、関係機関のつながり作りを行う。</li> <li>・多問題、生活困窮、家族支援を得られないケースに対し、個別支援のノウハウを蓄積し、センターの対応力を高める。地域に対して定期的に講話を開催するなど啓発を行っていく。</li> <li>・8050問題の啓発、支援体制の整備を行う。</li> <li>・移送の問題をはじめ社会資源の不足について住民の意識の醸成を行い、社会資源の再活用、住民同士の助け合いを促す。</li> <li>・社会資源の掘り起し、周知を図り、社会資源の少ない地域においてどのような生活手段があるかを住民、関係機関と共有していく。</li> <li>・認知症については「認知症と暮らす地域」を目標に2025年を一応の目標に啓発活動を行っていく。個別支援のノウハウを蓄積しセンターと地域、関係機関で連携して行う対応力を高める。</li> </ul>
区	あやし	<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率は18.45%と高くはないものの、総人口38,459人中、65歳以上の人口は7,097人で実際の人数としては少なくはない(令和元年10月時点)。</li> <li>・地域差はあるものの各地域で活発的にサロン活動を開催しており、地域での集いの場は多い(内容も茶話会にとどまらず、運動や健康講話なども取り入れ活動していることが多い)。又、落合市民センターや広瀬市民センター、社会福祉協議会でも活発に活動が開催されており参加する地域住民も多く、各々介護予防活動は図れている。</li> <li>・軽度の認知症に関する相談が増えている。</li> <li>・重大化までの内容ではないものの、昨年度は平成30年度と比べて虐待に関する相談が増えた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症について相談できる専門医や総合病院などが地域にない。又、認知症高齢者への関わりで不安を持つ地域住民も多く、『普段の関わり方に不安や負担を感じている』『サロン等に認知症の地域住民を迎えることに不安を感じている』という声が実際に挙がっている。</li> <li>・今後も虐待に関する相談の増加が心配される。改めて虐待に関しての周知活動の必要性を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に関する事業に注力し、認知症になっても本人や家族、地域住民ともに安心して住み続けられる地域づくりの支援を行う。</li> <li>・虐待に関しての普及啓発活動に注力し、理解を促すと共に虐待予防に繋げていく。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
青葉区	国見ヶ丘	<p>○中山・川平地域(中山中学区)は高齢化率27.4%。認定者率は19.0%で、微増傾向。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中山地域は昭和40年代から住む住民が高齢化し、独居や高齢世帯が多い。</li> <li>・坂が多く、ゴミ捨て、買い物、冬場の雪かきなどが困難となる例が多い。</li> <li>・地域組織は高齢化で担い手不足がみ。活動が縮小傾向。</li> <li>・震災後、新築戸建て住宅に、若い世代の転入もある様子。</li> <li>・世代間の考え方の違い等により、地域組織運営が複雑化している。</li> <li>・運動自主グループはあるが、歩いて通える範囲全てにはない。</li> <li>・川平地域は町内会単位で地域特性や活動状況がまとまっている。(となり近所とのつながりが薄く、重度化してから相談となったケースがある地区/地域活動への男性の参加が少ない地区/地域活動や社会資源が少ない地区など)</li> <li>・買い物に交通手段が少なく、難しい例は多い。</li> </ul> <p>○吉成中学区は高齢化率30.8%で増加傾向。認定者率は14.5%で横ばい。毎年65歳を迎える世代が多いと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雪が多く、雪かきは課題。</li> <li>・近くに商店、バス停もなく、買い物が困難になる例は多い。</li> <li>・地域活動は活発だが、担い手の高齢化、世代交代の課題がある。</li> <li>・同居となって転入、地域になじみのない高齢者も多い。(いわゆる呼び寄せ)</li> <li>・地域の活動者の考え方に温度差があり、地域活動の偏りがある。</li> <li>・独居や空き家が増え、孤立・閉じこもりのリスクを特に感じる地域もある。</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>○担い手の問題 若い世代の転入が見られている一方で、民生委員の欠員があったり、活動メンバーが固定化・高齢化しており、活動が縮小しているところもある。圏域会議へ地域からの参加が減ってきている地区もある。</p> <p>○生活支援の問題 一人世帯等で、ゴミ捨てが遠い、ゴミ出しだけやってくれれば、という声があるが、全体的な現状は把握できていない。買い物が遠くて大変との相談がある。</p>	<p>計画性・目的意識をもち、相談・支援の効率化と質の向上をはかる。 認知症への対応・介護予防・地域資源の把握、開発などに、地域の関係機関と連携しながら取り組むことにより、住み続けられる地域づくりに努める。</p>
青葉区	南吉成	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当圏域の高齢化率:折立中学校区:33% 南吉成中学校区:29.4%</li> <li>・昨年に引き続き高齢者支援に関する地区関係機関の担当者の変更により、運営方法や、伝達の方法なども変化してきたため、新たな活動や取り組みも浸透しにくくなってきている。</li> <li>・関係機関を通じて、新たな活動や他の地域での活動に対して、興味や関心を抱く地域住民も増えてきているが、メンバーが固定されている。また、住民活動において、参加者の減少などもあり、現状の活動の維持が目標になってきている。新たな活動を創出する意欲までは結びついていない。</li> <li>・認知症や精神疾患に関する相談件数が増加傾向であるとともに、障害福祉サービスから移行したケースの相談も増えている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・折立中学校区における相談件数が増加傾向。特に、県営住宅在住の方や高齢者単身世帯における相談が増加している。</li> <li>・南吉成地区においては、虐待の相談や精神疾患に関する相談が増加してきた。</li> <li>・地域の要となる役員の方の変更に伴い、高齢者支援に対する従来からの地区関係機関の担当者の理解や意識改革へのアプローチが必要な状態。</li> </ul>	<p>住み慣れた地域で、誰もが生活を継続できるように、地域課題を整理し、住民同士のつながりや地域の社会資源の活用につながるよう支援する。 特に、折立地区での高齢化率の増加や相談件数の増加に伴い、より身近な場所での相談受付等ができるように準備を行い、相談支援体制の強化に努めていく。 また、地域の関係者や関係機関と情報共有を図るとともに、集積した情報の整理を再度行い、災害時や見守り支援の体制を整備する。</p>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
青	桜ヶ丘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室は担当圏域内の桜ヶ丘、川平の地域の集会所で自主グループも含め開催されている。センターは県営住宅との関係性は図られるようになったが、定期的な予防教室開催までは至っていないので開催ができるように声かけが必要である。</li> <li>・地域の高齢化とともに認知症の人が増加することは避けられない現実である。認知症を正しく理解し認知症になっても住み慣れた地域に暮らし続けられるように地域住民に対して普及啓発が課題である。</li> <li>・センター開設以来、介護予防教室が大切なことを働きかけて現在に至っている今後も機会をとらえて地域の身近なサロン等の参加者拡大が課題である。</li> <li>・包括圏域会議において「川平町内会のしおり」「桜ヶ丘サロンガイドマップ」の活用についての提案では、熱心に有用な意見が出されている。閉じこもりがちな高齢者の外出支援を図ることから介護予防の必要性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内には県営住宅と市営住宅があり、担当制にすることで片寄りが生じる可能性が考えられることと地域の状況を知るためには複数の視点が多いほうが良いとの考えから担当制は設けてない。</li> <li>・センターの年間計画については、会場確保の為に年度初めに年間計画表が提示されて共有化し進捗状況を確認していく。</li> <li>・閉じこもりがちな高齢者には「川平町内会のしおり」「桜ヶ丘サロンガイドマップ」を携行して参加を促し、機能強化専任職員と連携を図っていく。</li> <li>・センター職員は中立・公正でなければならないことを理解し、介護予防プランの委託事業所と委託の件数を法人事務局に提出、偏らないように意識をしていく。</li> <li>・利用者や家族からの要望や意見、クレームについては経過と対応について法人に報告をし、場合によっては仙台市に意見を求める等連携しながらの対応を続けていく。</li> <li>・職員の資質向上を図る為法人では年に2～3回地域内外の医療や介護に関する専門の講師を招いて法人主催の学習会を開催し、自己研鑽に関する助成制度もあるので活用を続けていく。</li> </ul>
葉区	小松島	<p><b>【幸町地区】</b>                  県営住宅・市営住宅・都市再生機構が多く建ち並び独居高齢者や高齢二人世帯が多い。障害者関連の通所施設や精神科病院デイケアへ通う障害者が多く住んでいる地域でもある。そのため、高齢者だけでなく高齢者と同居している何らかの精神障害を抱えた家族に関する相談が多くなっている。</p> <p><b>【幸町南地区】</b>                  この10年の間に大型商業施設ができ、周辺にはマンションが多く建ち並び就労世帯も多い。町内会長は単年度交代がほとんど。そのため住民同士のつながりが希薄であり単独町内会の活動は不活発。平成28年地区社協の再編により、今後の地域づくりに向けての地区組織活動が展開されていた。しかし平成31年4月に続き、令和2年4月にも連合町内会長が交代することとなり、地区全体の活動が不安定な状態になりつつある。                  支援ケースの傾向は幸町地区と類似。8050問題が顕著。</p> <p><b>【栢江地区】</b>                  二の森は坂道が多く古くからの戸建て住宅がほとんどで、女性独居高齢者の割合が高い。そのため町内会活動を運営する人材が不足し、老人会が解散した。                  「栢江地区まちづくり委員会」で課題共有はされるが、解決に向けて検討実現化することがほぼ無い。</p> <p><b>【安養寺・自由ヶ丘地区】</b>                  4町内会が単独で町内活動やサロンを展開している。そのため各町内会によって活動に差が出ており地区全体としての取り組みが少ない。                  自由ヶ丘地区は町内会を中心とした行事やサークルが多く活発に行われている。若葉ハイツや安養寺上は運動自主グループの活動をきっかけに町内が活性化されてきている。                  安養寺第一は集会所がないためサークル活動は行われておらず、加えて青葉区と隣接しているため小学校区が分かれ子供会も2つとなり世代間の交流が困難。</p> <p><b>【小松島地区】</b>                  町内会長は在任期間が長い傾向にあるが、町内会単位での高齢者に関する支え合いの意識が低いと、啓発が必要。昨年3月まで在任していた地域のキーパーソンが全ての会長職を辞してから、地区社協の弁当配達事業は無くなり、地域活動の停滞や連携・協力体制が不安定になっている。</p> <p><b>【圏域全体】</b>                  公営住宅・生活保護世帯が多いと、貧困に関わる経済問題のケースや、家族関係が悪化しているケースへの支援が増加している。                  中国残留邦人帰国者が高齢化し、支援対象者が急増。地域とのつながりは希薄であるため孤立化。事業者での受け入れが不十分であり、通訳の派遣対応が減少しているためモニタリングに支障をきたしている。</p>	<p><b>【幸町地区】</b>                  高齢者・障害者の関係機関・地域組織とのネットワークを強化。</p> <p><b>【幸町南地区】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸町南地区社協と共に「幸町南きずな会」(ボランティア組織)の運営・活動の後方支援を行う。</li> <li>・新たなキーパーソンとの関係性づくり。</li> </ul> </p> <p><b>【安養寺・自由ヶ丘地区】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度地区全体で地域課題の整理を行っており、今年度は課題解決に向けた取り組みを住民と共に行いネットワークの強化による地区全体の活動の活発化ができるよう働きかける。</li> </ul> </p> <p><b>【栢江地区】</b>                  「栢江地区まちづくり委員会」にて、燕沢地域包括・宮城野区社協と共に地域組織のネットワーク強化に努め、課題共有だけでなく地域活動に結び付けていく。</p> <p><b>【小松島地区】</b>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議での抽出課題を連合町内会・単位町内会ごとの地域活動に結び付けていく。</li> <li>・昨年8月、高齢者が外出するきっかけ作りのための地域資源情報紙発行。企画委員会にて情報内容を協議し今年度も地域資源情報紙を発行予定。</li> </ul> </p>



区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
宮	岩 切	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩切駅周辺は新興住宅地と旧家、借家、アパートが多い地区に分かれ、認知症高齢者、生活管理、疾患面の管理が出来ない独居高齢者の問題が増えている。</li> <li>・県民の森のふもとの地区は、山の斜面を削り新たな住宅地の建設が進んでいる。坂道のため外出が出来ず、閉じこもりになっている住民も多いが、表面上に出てこないため関係機関も「問題ない」と認識している。</li> <li>・バス道路に面した地域では、旧家が多く、代々農家を営む家も多い。同居世帯が多く、親子の関係で精神的負担を感じているケースも多い。</li> <li>・利府街道や七北田川に分断された地域では、台風や大雨の際常に危険区域となるが、高齢者も多く避難がままならない。避難先も遠い。</li> <li>・認知症や障害などで本人、家族に問題が生じて「関わらないでほしい」と訪問を拒否するケースが見られる。自分たちの問題を「知られたくない」と隠す住民性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認知症・福祉カフェ「ここいわの会」の機能強化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に続き、カフェの継続。</li> <li>・圏域の事業所が連携して行うというスタイルは崩さず、かつ改めてカフェの目的についてスタッフ間で共有を図る。</li> <li>・あらたな事業所、住民、ボランティアの発掘により運営側の拡大を図る。</li> </ul> </li> <li>○あらゆる世代が互いに関係性を築ける地域づくりを目指す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度児童館での認知症サポーター養成講座や、イベント参加により築いた関係性をさらに強化する。</li> <li>・社会学級との共催で福祉カフェを開催。幅広い世代への働きかけを行う。</li> </ul> </li> <li>○圏域のケアマネジャーと関係機関、関係者とのネットワークを作る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩切地区ケアマネのつどい(数居の高くない事例検討会)から、個別ケア会議へつなげる。</li> <li>・個別会議の重要性をケアマネジャー、地域関係者に伝えていく。</li> </ul> </li> </ul>
城	東 仙 台	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強会に医療機関から参加していただき専門的な意見をいただくことで圏域の介護支援専門員のスキルアップを図る必要がある。</li> <li>・各関係機関との連携やネットワーク構築は以前よりも深まってきていると感じる。一方、地域づくりの推進という点ではまだ十分でない点がある。引き続き地域特性や実情、ニーズ把握に努め、地域関係機関と協働して地域づくりを行っていく必要がある。</li> <li>・ケア会議後出された意見がその後につながりにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当圏域の介護支援専門員を対象とした勉強会を継続する。勉強会の中で各事業所の主任介護支援専門員にスーパーバイザーや認知症講座の講話等を依頼し、主任介護支援専門員のスキルアップを図るとともに圏域内の居宅介護支援事業所のスキルアップにも繋がるようにする。</li> <li>・町内をはじめ各関係機関との関係づくりを行うとともに、引き続き地域アセスメント(特性・実情・ニーズ・社会資源の把握と分析)に取り組み、地域づくりにつなげていく。</li> <li>・ネットワーク構築や地域アセスメントの一環として、圏域の民児協の定例会に毎月参加する。又、町内行事や予防教室などの機会を通し、住民自身の声も聞きながら情報収集を行える場を作っていく。</li> <li>・ボランティア活動の意向がある人に社協と連携し活動先の紹介や開拓を図る。</li> <li>・ケア会議で出された課題や意見をさらに深め、つなげて発展させていくための機会をつくる。</li> </ul>
野 区	宮 城 野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の新規相談の、独居と高齢世帯は53%(独自の利用者名簿の更新が不十分なので、正確な数字ではない)。対応の難しさから、印象としては8割と感じた。</li> <li>・1月、65歳以下の介護相談が1週間に3件あり、高齢者の問題ではないと感じた。1年間では13件。</li> <li>・身寄りのない人、医療機関とのつながりの無い人、本人や家族が判断能力が充分ではない人、また周囲が身体状況や生活環境の悪化を心配しても支援を拒否するセルフネグレクトが、名簿上は9件だが、対応の難しさから、増えている印象があった。</li> <li>・予防教室でのアンケートにおいて、「認知症と診断されたらどうしますか」の回答が、自分の場合は、「家族・友人に相談する」27件、「相談機関に相談する」12件、家族の場合は、「家族・友人に相談する」18件、「相談機関に相談する」19件という結果で、自分の事は自分で何とかしよう、また認めたくない気持ちの表れだと思われ、認知症への理解が低いと思われる。</li> <li>・防災について、地域でさまざまな訓練の方法があり、把握しきれていない。台風19号の時、地域に聞くと、全体的には大丈夫と言いながら、実は浸水したという家があったり、また障害があり、家では耐えられなかった人がいたと後で分かったり、地域もその地域を把握することは本当に難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・65歳以上の高齢者だけではなく、プレ高齢者も対象として、介護予防・健康管理の必要性を周知する。</li> <li>・認知症の理解と自分事として備えるという意識を高められるようにする。また、自分個人だけではなく、お互い様の意識も高められるよう働きかけを行う。</li> <li>・判断能力が充分でなかったり、障害を持っている本人・家族への支援は、医療機関や障害者相談支援事業所、地域と連携を強化し対応する。</li> <li>・防災については、個人の備えの意識が大事ということと、地域でどう要援護者を支えるかを、地域、障害者相談支援事業所等と共に検討していく。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
宮	榴岡	<p>・榴岡地区はマンションの建設が絶え間なく続き、人口が増加し65歳以上も増加している。オートロックのマンションが多く、民生委員の声掛けや見守りが困難なケースがあり包括に情報が入りにくい状況がある。情報が入った時は、早急な対応が必要な状況になっている。</p> <p>町内会に入らないマンションも増えている為、防災面で町内会との連携が取れずに町内関係者が頭を痛めている。</p> <p>・榴岡地区以外は昔からの一戸建てが多く、町内会や民児協などの役員は高齢化し同じ方が幾つもの役割を担っている。</p>	<p>・地域包括支援センターが高齢者や他職種との地域連携の拠点となりこれからも住み慣れた地域で安心して暮らせるように支援していきます。</p> <p>・高齢者が暮らし方を自分で選択し、自己決定することを重視して、自立した生活が出来るように支援していきます。</p> <p>・高齢者の個々の人格・個性を最大限に尊重し、その人らしい生活が継続できるように、多様な主体によるサービスがその方のニーズや状態の変化に応じてスムーズに提供できるように支援していきます。</p> <p>・高齢者が社会参加・社会的役割を持てるように支援していきます。</p>
城野区	高砂	<p>○単独世帯及び夫婦のみの世帯等の増加に伴う終活の問題 当地域は、小学校区(高砂・福室)で見ると世帯数は増加しているが、人口は減少傾向にある。理由としては、単身者用の住居の増加や一世帯あたりの人数の減少などが考えられる。このような状況から、今後身寄りのない方や家族等とのつながりの少ない方が増え、エンディングの課題が増加してくると予想する。</p> <p>○担い手の不足 地域活動に参加する方が減少、不足している。町内会では、役員や協力的な住民の高齢化、班長の輪番制により継続的な活動が困難であることが理由として挙げられる。</p> <p>○我がごと丸ごとの意識醸成 身体機能の低下や生活上の不便が目立つようになると、本人の意思にかかわらず、施設が本人にとって一番良いという意見が根強くある。全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合える「地域共生社会」の実現に向け、障害や高齢による生活上の課題等を、自分ごととして考え、ともに取り組む意識づくりを継続して行う必要がある。</p>	<p>1. 地域・関係機関との連携・ネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が課題を発見した際、包括等の相談支援機関へつながるよう、地域関係機関への周知及び連携を図る。</li> <li>・住民ニーズの把握や個別ケースの検討を通じ、地域課題の把握に努め、住民とともに課題解決に向けて取り組む。</li> <li>・社会福祉協議会等と連携し、地域の福祉意識の醸成に取り組み、住民主体の支え合い活動の推進につなげる。</li> <li>・医療機関や福祉事業所等と連携し、地域包括支援ネットワークの維持・強化に努める。</li> </ul> <p>2. 認知症対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他機関や専門職等と連携し、認知症カフェやケアパスの活用等を通じ、地域住民の認知症に対する理解を広める。</li> <li>・個別ケア会議を通じ、地域生活を継続するための住民同士の支え合いの重要性について、理解と関心を深める。</li> <li>・認知症の人や家族の視点に立った取り組みができるよう、包括と当事者の方とのつながりを作る。</li> </ul> <p>3. 介護予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と協働による介護予防教室の開催など、介護予防の普及啓発を図る。</li> <li>・自主グループの活動の継続に資するよう、必要な情報提供や支援に取り組む。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
宮城野区	福田町	<p>圏域の高齢化率は21.37%であるが、地域により特徴に差があり大きく3つに分けている。</p> <p><b>【田子中学校区】 高齢化率19.81%</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市営住宅が4か所あることで、独居や高齢者世帯も多く、孤立しているために相談が上がりにくい地域もあり、実態把握が必要と考えている。</li> <li>・経済的困難や、精神障害、認知症等を抱えている方の相談も多い。</li> <li>・地域の見守りについて、地域差がある。一生懸命に取り組んでいるが、障害や認知症に対するの偏見により排除の方向に行ってしまう地域もある。</li> <li>・独居や高齢者世帯の方から、電球交換やゴミ捨て等で困っていることを聞かすが、ボランティア団体などがいない地域である。</li> </ul> <p><b>【鶴巻小学校区】 高齢化率22.23%</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古いアパートが多く、単身の男性の相談が多い地域で町内会に所属していないため地域でも把握できていない方が多い地域。</li> <li>・精神障害や経済的困難な方の相談も多い。</li> <li>・集会所がない町内会もあり、現在鶴巻コミュニティセンターが改装中のため、自主サークルやサロンなど、会場を変更して行っており、そこまで歩いていくことが大変で参加できなくなった方もいる。</li> <li>・自主グループが、高齢化してきており、今後の状況を見ながらサポートが必要になってくる可能性がある。</li> </ul> <p><b>【岡田小学校区】 高齢化率26.83%</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災後人口の減少や高齢化などにより、老人クラブ2つ、自主サークル1つが閉会した。堀切茶話会も町内会活動としては、福祉委員の後継者がいないため終了となった。</li> <li>・同居率も高く、昔からの結びつきが強い地域であるが、障害や認知症に対する偏見も大きく、家族が抱え込んでしまうことで虐待になるケースが多い地域。</li> <li>・浸水被害の地域も多く、震災から9年たっても心の傷を抱えて暮らしている方が多い。</li> <li>・防災集団移転により既存の町内会に入ったが、なかなか交流できないでいる方もいる。</li> <li>・震災関係の助成金が減額すること(来年度終了)で、南蒲生の健康教室の継続の課題がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>相談対応時、医療・介護など各関係機関と連携するための関係づくり             <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括内の密な情報共有と、病院や専門職との連携</li> <li>・地域ケア個別会議の必要時の開催と認知症初期集中支援事業の活用</li> </ul> </li> <li>地域づくりに向けた関係機関との連携と地域ケア会議の開催             <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の各関係団体に顔を出し、連携できる関係づくりと地域の実態把握を継続して行う</li> <li>・包括圏域会議を各小学校区各1回と全体会1回行う</li> <li>・地域ケア個別会議を必要に応じて開催し、地域でも課題を共有する</li> <li>・高齢化等で地域資源が減少した地域の実態把握とできる支援を考える</li> <li>・見守りの課題のある地域に対して、講座や地域ケア会議などを開催することで理解を進められるようにする</li> <li>・包括のチラシやケアパス等を持ち、地域の商店や金融機関、病院などを廻ることで包括の周知を行う</li> </ul> </li> <li>認知症の普及啓発と地域の事業所との連携             <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症カフェの開催(月1回 8月除く)</li> <li>・認知症講座のテーマを参加してもらえるよう工夫していく</li> <li>・認知症ケアパス地域版の見直しと普及啓発</li> <li>・権利擁護学習会の開催</li> </ul> </li> <li>介護予防の普及啓発と、必要な地域活動への支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室の開催(20回)</li> <li>・自主サークルのモニタリング(1回/3か月)と必要時の支援</li> <li>・運動教室のモニタリングと必要時の支援</li> </ul> </li> <li>ケアマネジャーへの支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネカフェは年2回開催</li> <li>・ケアマネジャー研修会の開催(宮城野区の包括で、高砂包括と合同で)</li> <li>・地域ケア個別会議の周知と活用</li> </ul> </li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
宮城	燕 沢	<p>西山中学校区を3つの小学校区に分け地域支援を行っている。各小学校区でネットワーク会議を開催し、さらに年に一回西山中学校区全体会議を開催している。これらの会議では地域課題を見いだせる手法を取り入れ開催し、その課題を地域ごとに共有している。</p> <p>【課題】</p> <p>1.燕沢・・・丘陵地帯に位置する古くからの住宅街で、地縁関係が深い地域である。道幅も狭く生活全般に於いて「坂」が課題となっている。認知症の理解や、地域の支え合いにおいても町内会レベルで意識の差が大きくなっている。</p> <p>2.西山・・・11町内会で形成されており、各町内会長と役員意識や考え方によって活動状況が大きく異なっている。ネットワーク会議においても、自分たちの地域の課題が見いだせない状況がみられている。</p> <p>3.柞江・・・圏域の中でも高齢化率が最も高くなっている地域である。特に安養寺2丁目においては高齢化率も35%に達している。歴史も古く地域活動も積極的に取り組まれており、「柞江まちづくり委員会」において課題も明確になっている。一方で、「担い手不足」や「参加者不足」も深刻であり、課題解決まで至らない状況である。全体的に担い手不足が大きな課題となっている。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 介護予防に取り組める地域づくり。</li> <li>② 自立支援に資するマネジメントを実施。</li> <li>③ 認知症の方に対する正しい理解の普及啓発。</li> <li>④ 住民主体の地域作りへ向け働きかけ。</li> <li>⑤ 地域包括ケアシステム構築に向けた地域ネットワーク化。</li> <li>⑥ 生活支援コーディネーター業務の発展とアウトリーチの強化。</li> <li>⑦ 各地域課題抽出と課題解決に向けた働きかけ。</li> <li>⑧ 地域特性・状況に合わせた総合相談支援体制の確立。</li> </ol>
野区	鶴ヶ谷	<p>令和元年10月1日現在の担当圏域別高齢者人口等推計値によると、鶴ヶ谷地区の高齢化率は37.54%で、宮城野区合計の21.07%に比べて際立って高い現状にある。そのために、医療や福祉に関するニーズが高く、当センターで担当するケースの中でも、認知症との関連が疑われる消費者被害や虐待に関する相談が相変わらず多い。</p> <p>世帯構成員別世帯数を見ると、1人世帯と2人世帯が全世帯のそれぞれ3割を占めており、全市データと比べると、2人世帯の割合が高くなっている。高齢者・障害者の同居世帯や精神障害、引きこもり等の問題を抱えた世帯も多く、中には地域との交流が途絶え、孤立している人もおり、生活上の困難が生じて発信することができない状況が散見される。</p>	<p>《地域支援事業》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 支援困難ケースへの支援強化と総合相談支援体制の確立</li> <li>② 地域包括ケアシステム構築に向けた地域ネットワーク化</li> <li>③ 職員各自の専門性向上による地域支援の充実強化</li> <li>④ 認知症の早期発見・早期対応と家族支援の体制構築</li> <li>⑤ 地域ニーズの抽出と地域関係者との課題共有化</li> <li>⑥ 地域ケア会議開催に向けた地域調整と会議の開催</li> <li>⑦ ケアマネ支援を目指した地域ケア会議の提示開催</li> </ol> <p>《介護予防支援》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 手順に沿った支援の展開とチェック・記録・ファイリングの徹底</li> <li>② 予防プラン内容の質的向上とスケジュール管理の徹底</li> <li>③ 予防プラン件数増加への対応と地域支援事業との業務バランス</li> </ol> <p>《機能強化専任》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 生活支援コーディネーター業務の発展的確立とアウトリーチの強化</li> <li>② 地域アセスメントの徹底と地域関係者との連携強化</li> <li>③ 圏域における総合事業の円滑な展開とサービス利用の浸透</li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
若林区	六郷	<p>1. 高齢化率が29.28% (R1.10.1現在)となり市内でも高い水準となっている 28.35%(H29.10.1現在)→28.71% (H30.4.1現在)→28.82%(H30.10.1現在)と微増ではあるが増加傾向にある 独居や高齢者のみの世帯が増え日中独居や日中高齢者のみの世帯も多い</p> <p>2. 海や川が近く津波や川の氾濫等水害の危険性が高い 町内会ごとに体制が異なっているため現状を把握し日頃からの情報交換と協力体制の構築が必要</p> <p>3. 復興公営住宅、防災集団移転地区での新たなコミュニティ作りが進んでいる 防災集団移転地区は以前から交流のある方同士が多かったことや震災前から行っていた集まりを継続する形でコミュニティ形成が順調に進んだ一方、復興公営住宅は他地域から来た方も多くコミュニティ形成が順調に進んでいるとは言い難い状況</p>	<p>1. 各地区の集まりの場に顔を出し、顔の見える関係作りに努める他、自主性を損なわないよう運営のバックアップを行う</p> <p>2. 災害時要援護者リスト登録者をはじめとする要援護者に対し、災害発生時の避難方法や支援者との協力体制の確認・強化を各町内会と協同で行う</p> <p>3. 各町内会活動や老人クラブ、サロン活動等で健康講話や消費者被害防止、権利擁護等高齢者の生活に役立つ情報発信を行う</p> <p>4. 日頃から高齢者が関わる機関(町内会、民生委員、福祉委員、老人クラブ、交番、病院、薬局、商店、金融機関、介護保険事業所等)との情報交換を行う</p> <p>5. 電話、来訪等で受けた全ての相談内容に対処できる知識、面接技術の習得、関連機関と連携をとれる関係性づくりを目指す</p>
区	沖野	<p><b>【課題】</b> 沖野地区人口令和元年10月現在で13,914人(人口は前年より30人増)うち65歳以上3,752人高齢化率27.03%うち75歳以上1,789人昨年より、0.5%の上昇。若林区では2番目の高齢化率。介護認定者数625人(昨年より30人増)相談件数は電話・来所も増加し、合計616件のうち、介護保険・在宅介護相談・認知症相談も増加傾向</p> <p><b>【介護保険:368 件数 認知症 94件】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖野地区はメタボリックシンドロームや喫煙率が高く、介護予防・健康意識が希薄である。またサロンや運動教室等男性の参加が少ない。</li> <li>・組織の代表者、担い手の高齢化で、一部の組織運営が難しくなって来ている。</li> <li>・認知症について本人、家族とも正しい理解やそなえが進んでおらず、自分事として捉えていない。</li> <li>・入退院の相談・調整等が増加しており、関係機関との細やかな連携が必要。</li> <li>・後期高齢者の老後についての備え、地域に暮らし続けるイメージが不十分である。</li> </ul>	<p><b>【地域・関係機関との連携・ネットワークづくり】</b> 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることが出来るよう、医療・介護・予防・生活支援住まいなど連携機関と協力し、ネットワークづくり継続する。</p> <p><b>【認知症施策の推進】</b> 高齢になっても認知症になっても住み慣れた沖野で暮らし続けられるよう認知症の正しい理解と支え合いの仕組みづくりに取り組む。</p> <p><b>【介護予防の推進】</b> 地域住民自身が介護予防の必要性を理解でき、意識の浸透を図り、普及啓発を積極的に行う。</p> <p><b>【権利擁護の普及・啓発】</b> 権利擁護の普及・啓発を取組み、気軽に相談出来る環境作りを行う。</p>









区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
太白	西多賀	<p>地域・町内会活動に温度差が見られる。年々高齢化が進行し、身寄りのない独居高齢者・家族関係が疎遠で多問題を抱える高齢者・社会的接点が希薄なご家族と同居される高齢者等が増える一方で、見守り等の地域活動を支える担い手不足といった課題が深刻化してきている。</p>	<p>1、地域・関係機関との連携・ネットワークづくり 圏域内の町内会・民児協・地区社協・市民センター・医療機関・介護サービス事業所・生協・老人会等の関係機関と連携維持/強化を図ることで、地域住民のニーズ・地域課題・地域資源の理解を深める。関係機関との連携を基盤に、既存の住民主体活動との関わりを深めることで、住民同士の有機的なネットワーク拡充に努める。</p> <p>2、認知症対策の推進 認知症の方とその家族の心情に配慮した「認知症に対する正しい理解」と「地域での見守りの重要性」の更なる普及啓発を、認知症カフェのサポート・認知症サポーター養成講座開催等の活動を通じて、継続して促進する。また、認知症の早期発見・早期対応が図られるよう、認知症初期対応サポートチームや認知症医療センター等をはじめとした関係機関との連携を深め、多職種連携による支援体制の充実を目指す。</p> <p>3、介護予防の推進 地域の高齢者の方々が、その人らしく、住み慣れた地域で安心且つ主体的に生活が続けられるよう、関係機関と連携を図りながら、介護予防・社会参加の重要性の普及啓発及び活動機会創出に努めると同時に、個々の生活状況に即した「自立支援」のケアマネジメントを推進する。</p> <p>4、丁寧且つ適切な相談対応の徹底 地域の方々がより相談し易い組織となるよう、日々の業務実践を通じて、丁寧且つ適切な相談/対応を徹底します。</p> <p>5、センター組織における良好な業務環境の維持及び適切な人材育成 職員相互のサポート体制に対する意識を高め、本質的なチームアプローチを目指すことで、各職員が、法令順守の徹底と同時に、個々の色を出しながら主体的に業務に取り組める職場環境の維持を図ります。その上で、サポート意識に根差した人材育成の継続を推進します。</p>
長区	町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の独居や高齢者世帯の増加に伴い、介護保険に関する相談や認知症相談、成年後見制度についての相談件数も増加している。家族に障害を抱える世帯からの相談も多くなっている。</li> <li>・高齢者に対する地域の関わりは、年々意識が高まってきているが、認知症に対し家族の認識と関係機関との間に温度差があり支援に時間を要するケースがある。</li> <li>・支援が必要であるのに身寄りが無い、家族関係が薄く支援に苦慮する相談もある。</li> <li>・交通の便が良くあらゆる面で充実している地域は活動の場も多くあり出かける意欲にも繋がっているが、坂道が多い地域では、活動範囲が狭くなりがちで心身機能の低下に伴い他者との交流が少なくなっているところもある。</li> <li>・隣近所で気になる人の見守り活動を行っている町内会もあるが、マンション、アパートの集合住宅の高齢者は孤立になりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が尊厳を持ち健康で生きがいを感じながら社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らせることができる社会の実現を目指す。</li> <li>・高齢になっても安心して住み慣れた地域で暮らせるように地域に親しまれ、迅速に対応できる総合相談支援窓口を目指す。</li> <li>・行政、医療、関係機関との更に充実したネットワークを構築する。災害や徘徊、高齢者虐待、消費者被害等に対して俊敏な対応に向けて継続性を持って地域づくりを行う。</li> <li>・ケア会議開催の推進を行い、そこから抽出された地域課題を明確化し住民が参画して支え合う町づくりの活動を広げる。</li> <li>・高齢者の権利擁護の普及・啓発。</li> <li>・健康で元気でいられるために、介護予防の普及・啓発。</li> <li>・地域資源の発見とサロンやボランティアの発掘を行いつながりや連携を生かした地域の支え合いへの支援の継続。</li> <li>・認知症の病気の理解と正しい対応を周知し、認知症の人が安心して暮らせるまちを目指す。</li> </ul>



区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
太白	西 中 田	<p>・令和元年10月1日現在、圏域内の総人口30,103名に対して65歳以上の高齢者数が5,811名、65歳未満の現役世代の人口が多い為、高齢化率では19.30%と近隣地域よりも低くなっている。</p> <p>・総合相談等から、独居高齢者や高齢夫婦世帯、独居高齢者と障害者との世帯、認知症や精神障害、8050問題等に関する相談が増えている。</p> <p>・介護予防の推進、認知症の早期発見・早期対応に加え、要介護状態、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりや必要な支援を受けながら自立した生活を続けられる体制作り、地域の資源やつながり、専門職の連携を生かした地域での支援体制作りが必要である。</p>	<p>《地域・関係機関との連携・ネットワークの強化》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域内で活動するケアマネジャーに向けた情報交換会や研修会、個別相談等での支援、地域団体と協力して認知症を含む高齢者が安心して生活できる支援体制作りに取り組む。</li> <li>・地域ケア会議(個別ケア会議含)を通して、地域の高齢者問題を共有し、課題解決を図る。</li> <li>・住民主体の通いの場につないでいけるよう、また、地域における支え合い活動につないでいけるよう、様々な場面を活用し住民の意識に働きかける。</li> </ul> <p>《認知症の理解》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生や中学生向けにサポーター養成講座を開催し、受講後ボランティア活動として施設での活動や認知症カフェの手伝い等につなげる。</li> <li>・地域住民や市民センター、地域の関係機関・事業所等に働きかけ、協力支援体制を継続し、認知症カフェの企画、運営を行う。また、認知症に関する講話を取り入れ、参加者たちへ認知症への理解を推進する。</li> <li>・認知症高齢者の家族を対象に、交流会を立ち上げ、情報を交換したり、共有したりし、互いにつながり支え合う場、癒しの場となるよう働きかけていく。</li> </ul> <p>《介護予防の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で介護予防の受け皿になっているサロンや老人クラブの支援に加え、運動自主グループが継続できるよう後方支援を行う。</li> <li>・自らが介護予防に取り組むことの重要性や社会参加、生きがいづくりが介護予防、健康寿命につながることを理解してもらえよう普及啓発活動に取り組む。</li> </ul>
袋原区	袋 原	<p>震災以降、若い世代による戸建て住宅への転入が増え、圏域内の小学校の学童数は900名弱となっている。一方で昔からの農家や昭和40年代から移り住んだ戸建て住宅も混在した地域であり、住民同士の親密度の差は大きい。また、総人口15,005人に対し、高齢化率27.15%と年々増加している。人口の増加に加え、高齢化率の増加も見込まれることから、世代を問わず地域の支え合いは重要なものと言える。見守りやサロン活動が少しずつ定着してきているが、生活支援活動については意欲のある人がいても高齢であることを理由に活動の主となることを控えている状況にある。</p> <p>また、戸建て住宅や同居世帯も多いためか、同居している息子や娘が無職無収入で経済的な不安を抱え、さらに何らかの疾患が疑われるようなケースも多く、虐待やその可能性が極めて高いという状況が見られている。課題が複雑化していることで、包括だけでは対応が困難なことが多く、他分野の事業所や他専門職種との連携が必須となっている。</p>	<p>高齢者が地域の中で自分らしく生活を継続していけるような支え合い体制づくりの取り組みとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区と共催で行う健康づくり事業を通し地域の支え合いの重要性について地域住民の理解や関心が深まるよう、地域関係団体と協力し圏域全体を対象とした勉強会を開催する。</li> <li>・新しく把握した担い手となり得る人との意見交換の場を設け、実際に地域で活躍してもらえるよう具体的な活動へつなげる。</li> </ul> <p>地域包括ケアシステムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閉じこもりがちな男性が地域活動に参加するきっかけづくりを継続し、圏域全体に向けて男性を対象とした介護予防教室を実施する。</li> <li>・出張相談所を継続して実施。障害者相談支援事業所と合同で行う事で連携を図りながら様々な相談に対応できるようにする。</li> <li>・介護事業所と包括との情報交換会を開催し、地域課題の共有を図り多職種間の連携を深める。</li> </ul>

令和2年度 地域包括支援センター運営にあたっての基本方針等

【資料1-1②】

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
太	四郎丸	<p>・圏域の高齢化率は30%を超え、特に市営住宅(17棟)は、独居高齢者が多く、さらに認知症、精神疾患により多問題を抱えた相談も増えている。</p> <p>・低所得で身寄りがいない高齢者が増えており、入院や入所、介護サービスの利用が円滑に進まないなどの問題が発生している。</p> <p>・介護予防運動自主グループやサロン活動があり活気のある町内会がある一方、高齢者の集う場がなく介護予防の機運を高めていく必要のある町内会もある。</p>	<p>① 地域・関係機関との連携・ネットワークづくりの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者の抱える様々な問題・課題に対応、解決できるよう地域の関係機関とのネットワークを強化していく。</li> <li>・地域住民に支えあい地域づくりの必要性を感じてもらえるよう意識醸成に努める。</li> </ul> <p>② 認知症対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の正しい知識と理解の普及啓発を行い、地域で認知症の人を見守る意識の醸成を図る。</li> <li>・地域の医療機関、関係機関との連携を強化し、認知症の人の早期発見・早期対応に取り組む。</li> </ul> <p>③ 介護予防の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の高齢者に介護予防の必要性を広め、自主グループやサロンの参加を促すとともに、集いの場を新たに作っていく。</li> <li>・閉じこもりがちな男性の社会参加と介護予防の促進に取り組む。</li> </ul>
白	富沢	<p>令和元年10月の地域人口に対する高齢者の割合のデータでもわかるように高齢化率14.8%と仙台市内でもかなり若い子育て世代が多い地域となっている。この数字が示す通り、若い世代にいかに関護や認知症、包括についてなどを周知できるかが課題である。</p> <p>町内会運営にあっては高齢世代の役員等が占める中で、後継の役員が見つけられないことが課題となっている。また、独居の高齢世帯も増加しているなかで、各地域毎に社会資源としてカフェやサロン、運動自主グループの創設が急務であるが、活動参加に理解を示す人はいるものの核となって運営を担う人材の発掘が課題となっている。</p>	<p>富沢包括支援センターの永遠のテーマ「高齢になっても認知症になっても住み慣れた地域での生活が継続できる支援体制づくり」を継続していくために以下の事項に取り組んでいく。</p> <p>① 介護予防を中心に、健康を維持しながら、自身の生活意欲を見いだせる機会を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防教室開催 ・出前講座(健康講座、運動講座等)</li> <li>・自主グループのサポート</li> </ul> <p>② 支援が必要になっても自立した生活が営めるよう地域の協力がえられる体制を構築していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護、認知症サポーター養成講座開催</li> </ul> <p>③ 地域内の介護サービス事業所、医療機関、行政との連携を図るとともに、住民からの協力者を見出し包括的、継続的ケアマネジメント体制構築にむけ以下を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議開催・事業所ネットワーク会議開催・ケアマネ研修会開催</li> </ul>
茂庭区	茂庭	<p>&lt;茂庭台中学校区&gt;</p> <p>市営住宅とマンション群、一戸建て住宅から構成されている団地で、独居や高齢者世帯が多い。市営住宅やマンションでは、一戸建て住宅に比べ、隣近所の付き合いが少なく、入居者の状況が把握できず、自ら訴えられる人でなければ、適切な支援を受けることができにくい。また、町内会に入会していない、脱会する世帯も多く、個人同士でつながっていたとしても、地域とのつながりや関係が希薄である。</p> <p>&lt;生出中学校区&gt;</p> <p>同居世帯は多いが、地縁血縁による結束力が非常に強く、隣近所の繋がりも深い。その為、家庭内の問題が表面化されにくい。また、周囲が支援を必要と思っても、当事者が支援を望まなかったり、公的サービスを利用したがるが、状態が重度化されるケースも多い。</p> <p>市街化調整区域のエリアは、通勤の不便さなどもあり若者世代の流出が多く、更に独居、高齢者世帯も増えており、地域の支え手が減少している。</p>	<p>・地域の防災体制について、現状ある防災マニュアルの活用、要援護者の情報共有、日頃より有事にも混乱なく援護できる体制づくりを構築する為の話し合いの場を設けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主体の生活支援ボランティアの運営について、運営委員会、町内会、社会福祉協議会等関係団体と連携を図りながらバックアップし、地域で支え合える体制を作る。</li> <li>・地域の実情に応じた見守りや支援体制が整えられるように、地域ケア会議や民生委員との情報交換会、その他地域の会合等を活用し、地域の核となる方と、必要時に連携できるようにする。</li> <li>・圏域の特定事業所加算を取得している居宅介護支援事業所と協働し、事例検討会を開催する。また、事例検討会の運営方法を学ぶ研修会を設け、スキルアップを図っていく。</li> <li>・「さくら茂秋の会(茂庭、秋保地域保健・福祉連携の会)」を活用し、医療機関、薬局、介護保険サービス事業所との顔の見える関係作りを強化できるようサポートする。</li> <li>・地域の方が認知症の理解を深める場、また認知症の方の活躍の場として、オレンジフェスタを開催し、交流を通して認知症になっても安心して暮らし続けることができる町づくりを目指す。また、小・中学生、保護者を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、若い世代へ認知症の理解を深めていく。</li> <li>・要支援者や事業対象者の方が、介護保険、介護予防・日常生活支援総合事業のサービスを卒業できるよう働きかけ、その後の受け皿となるような自主運動グループの立ち上げを支援する。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
太白区	秋保	<p>秋保地区の人口は令和元年10月現在4,112人で前年比4人減少し、その一方で、高齢者人口は11人増え1,480人で高齢化率は35.99%（前年比+0.3%）で、仙台市の包括担当圏域で第6位である。また後期高齢者が717人17.44%（仙台市平均11.67%）で、高齢化率の上昇は地域住民が感じており、高齢者のみならず住民が必要としているものを、地域住民が主体となって整理する機会が徐々に増え、問題解決の行動を起こしつつある。</p> <p>また、豪雪地帯に指定され除雪作業の負担や、公共交通機関の減便や近くの小売商店の閉店で外出や買物が不便になっている。さらに総合病院は圏域内にはなく、片道1～2時間かけ通院しなければならぬ。加えて、専門病院も圏域に少なく、通院するための手段が限られている。また、昔からあった「講」の習慣も実施する地域が限られ、負担に感じている住民もいる。</p> <p>このような一見不便と思われる現状でも、自然豊かな環境や隣近所の助け合いがあり、現在はサロンが11か所、介護予防自主グループが7か所で、地域住民は生活に根差した暮らしをし、現住所にずっと住み続けたいという考えを持っている人が多い。</p> <p>すでに地域の多様な支え合う精神や助け合いが存在しており、それを尊重しつつ高齢者が元気で社会参加していくための取り組みや、支援が必要になっても地域で安心して暮らすことができるよう、地域における支え合いの体制づくりが必要である。</p>	<p>総合相談・支援や権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援、認知症高齢者への対応などの包括的支援事業と併せて、介護予防事業や地域・関係機関との連携・ネットワークづくりなどを行い、仙台市の計画の基本目標の実現に向け、介護、福祉、健康、医療などさまざまな面から高齢者に対する支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域との関係機関に積極的に出向き、団体や個人との結びつきを強化することで、個別課題の解決や、地域課題の抽出・解決やネットワークづくりや社会資源の把握・開発につとめる。</li> <li>2. 認知症になっても安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、関係機関との連携体制を構築する。また、地域住民が認知症を正しく理解することで、支え合いができる地域づくりを目指す。</li> <li>3. 介護予防・地域支え合い活動に取り組む地域団体・自主グループなどが、今後も地域住民によって自主運営できるよう支援を行なっていく。さらに、集いの場に介護予防運動を導入することや定期開催をすることを推奨・支援し、住民の介護予防の意識を高められるように働きかける。</li> </ol>
泉区	泉中央	<p><b>【泉中央】</b> 大きな商業施設も多く年代層の幅が広い。集合住宅が多く住民の把握はオートロックの影響もあり依然難しい。</p> <p><b>【野村】</b> 地域が広く集会所がなく住民間での交流範囲が限られている。集まりの機会が減っており、高齢化も進み外出の機会が減っている。</p> <p><b>【七北田・市名坂】</b> 古くからの住民と転居してきた方での考え方の違いがある。新しく何かを始めると意見の相違が出やすく、根回しが重要な地域。</p> <p><b>【本田町】</b> 認知症カフェが1か所で終了し、また外出の機会が減った。</p> <p><b>【天神沢】</b> 自主グループや新たな集いの場が立ち上がり、交流の機会が増えている。</p> <p><b>【友愛町】</b> 地域での助け合いに力を入れている。小さな地域だからできる取り組みを積極的に行っている。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 医療連携助成金を昨年からもらい、より充実した内容になっている「泉中央連携の会七中いいねっと」を今年度も継続し、包括ケアシステムの構築に力を入れていきます。</li> <li>② 認知症カフェの継続開催をし、認知症の理解・早期発見などに力を入れていきます。</li> <li>③ 認知症介護家族交流会を継続開催し、介護者、当事者の関係性が良好に保てるようにします。</li> <li>④ 地域版認知症ケアバスが地域で活用されるように、周知活動を継続します。</li> <li>⑤ 介護予防教室の継続開催をします。</li> <li>⑥ 「ふくしフェスタの泉中央2020」を今年度も開催し、世代・地域を超えた普及啓発活動ができるように努めます。</li> <li>⑦ 地域ケア個別会議を活用し、個別支援ができるように努めます。</li> <li>⑧ 障害からの移行がスムーズにできるように努めます。</li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
泉区	将監	<p><b>【将監地区】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総人口13,329人、高齢者数4,475人⇒高齢化率33.57%、人口減。</li> <li>○ 13丁目のうち、高齢化率が40%超の町内が1町内、35%超が6町内と年々高齢化率が上昇。一部地区では新築住戸(戸建・マンション)への若い世代の転入が増え、高齢化率がピーク時から約10%減少している町内もある。</li> <li>○ 後期高齢者数、独居高齢者・高齢者世帯数、認知症相談件数が増加。高齢化率の上昇とともに町内会・自治会役員等の担い手不足が顕著。一方、若い世代の転入により町内会活動に参画する住民が増加した地域もある。</li> <li>○ 賃貸集合住宅が集中する地区は、戸建地区と比較し所得格差がある。</li> <li>○ 生活保護世帯・身寄り無し等の理由から、第三者介入やサービス導入が困難な事例が散見。相談内容も複雑化している他、親とその子ども世代同居でそれぞれが生活課題を抱える世帯、急な対応が必要なケースが増加。</li> </ul> <p><b>【将監殿地区】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総人口3,065人、高齢者数198人⇒高齢化率6.46%と年々増、前年比で人口増。</li> <li>○ 高齢者数は年々増加も就労世代・子どもが多いことから、高齢化に対する問題意識は低い。コミュニティも不足。周辺地域との連携が困難な事由があり、孤立した地域。</li> </ul> <p><b>【桂地区】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総人口5,922人・高齢者数1,472人⇒高齢化率24.86% 人口減、高齢化率の伸長が顕著。</li> <li>○ 町内会・自治会を越えた交流が乏しかったが、2018年度、垣根を越えた活動が盛んとなり、2019年度は活動自体(コミュニティ)が増加。</li> <li>○ 毎年地域役員の変更があり、新たなキーパーソンとなる人材が育ちにくい環境であり、地域課題を理解する地域全体の方は弱いものの、これまでのキーパーソンが新たな活動を立ち上げる等の力を有しており、後方支援は継続必須。</li> <li>○ 10年後を見据えた活動との意識が広がり、一部住民に盛り上がりが見られるが、地域全体での互助意識は十分ではなく、醸成に対する継続支援が必要である。</li> </ul> <p>* 圏域全体では、精神疾患、ファーストタッチ時点で症状が進行した認知症の相談増。</p>	<p>(1) 地域・関係機関との連携・ネットワークづくり 「将監・桂連携の会」(医療介護連携)では、関係機関と連携し、地域の健康フェアに引き続き参加。包括圏域会議では、メンバーの再編を行い、圏域内の医療・介護・予防・生活支援・住まいにかかわる関係機関との連携を強化し、地域包括支援ネットワークを強化する。</p> <p>(2) 認知症施策の推進 地域住民や小学校、商業施設等へ、認知症に関する正しい知識と理解の普及啓発を続け、認知症の方の声を反映させながら、地域で認知症の人を見守る意識の醸成を図るとともに、サポーターが主体的に活動できる機会を継続する。</p> <p>(3) 介護予防の推進 地域の介護予防に資する団体への後方支援を継続する。事業対象者リストの該当項目から統計をとり、地域特性を意識した介護予防の理念の浸透を図る。</p>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
泉	寺岡	<p><b>【寺岡地区】</b>                      &lt;現状&gt;                      ・総世帯数に変化はないが、総人口は約50人減っている。                      ・一方、高齢者人口は100人以上増加している。                      ・高齢化率は41.9%。(前年度より2%増)                      ・うち前期高齢者が64.8%。後期高齢は35.1%で前年度より1.6%増。                      ・認定率は約13.5%。                      ・高齢でも個人での活動や趣味活動に参加している人が多い。                      ・会社に所属し収入を得ている高齢者も少なくなく、経済的に余裕がある。</p> <p>&lt;課題&gt;                      ・高齢者世帯のほとんどが夫婦世帯か、独居世帯で、その子世帯は遠方が多い。                      ・配偶者への介護、配偶者の死によって孤立してしまう人が増えつつある。                      ・近隣に頼ることに抵抗が強い傾向があり、実態が表に出にくい。                      ・地域の支え合いの必要性を感じている人がまだ少ない。                      ・地域活動においてリーダー的な立場になりたがらない。ゆえに固定化している。</p> <p><b>【紫山地区】</b>                      &lt;現状と課題&gt;                      ・総世帯数は微増。総人口はほぼ変わらず。                      ・高齢者人口は前年度より約40人増。高齢化率12.3%で、前年度より0.7%増。                      ・30～40代の親とその子供世帯が依然多い。2世帯同居も少なくは無い。                      ・他地域からの転居者が多く、つながりを求めている高齢者も多いが、地域内にニーズに即した活動グループが少ない。                      ・個人々人での問題解決に終始しており、地域として支え合いのニーズは高まっていない。</p> <p>※一学区で、同小中学校であるため、両地区での交流も多く、情報の共有する機会がある。</p>	<p>「高齢になって支援が必要になっても、住み慣れた地域で馴染みの人とのつながりが途切れず、自分らしく安心して暮らしていける地域を住民と共に目指していきます。」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. まだ顔も見えず、声も聞こえない潜在する要支援者を発見し、早期の介入、適切な支援のネットワークに繋げていきます。</li> <li>2. 地域に認知症への理解者を増やし、認知症の人に地域の中で自然に関われ、支援できる地域になれるよう啓発し、人材を繋げていきます。</li> <li>3. 緊急時や災害時に、互いに声を掛け、助け合い支え合えるよう、日頃からの繋がりが持てる場を増やします。</li> <li>4. 高齢・障害・疾病、虐待等の多問題家族に対して、住民と関係機関との支援ネットワークがすぐに整えられ、地域での問題解決能力を高める力を付けて行きます。</li> <li>5. いつまでも元気で生き活きと暮らせるよう、介護・疾病予防の活動や、集いの場の創設し、人とのつながりの輪を増やし、深めていきます。</li> </ol>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
泉	高森	<p><b>【高森】</b> 高齢化率:32%                      ・地縁組織と各団体、機関(地区社協、民児協等)の連携、協働ができていない。                      ・2丁目(マンション群)の住民の生活状況が把握しづらい。</p> <p><b>【高森東】</b> 高齢化率:32%                      ・住民支え合い活動に加入、参加していない住民の受け皿をどうするか?                      ・地域の各団体による見守り活動において明確な役割分担ができていない。</p> <p><b>【泉ヶ丘・大沢】</b> 高齢化率:31%                      ・新たな活動に消極的(支持的、コンサル的な関わりが必要)                      ・認知症の人、家族の支援体制(場や活動)が整っていない。                      ・継続的な地域活動は地区社協に偏っている。                      ・居場所、活動の場が不足。</p> <p><b>【各地域共通】</b>                      ・地域住民と医療福祉事業所のつながりが弱い。                      ・認知症の人が主体的に参加し、住民と交流できる活動が少ない。                      ・インフォーマルサービス資源が少なく、利用率も低い。</p>	<p>1. 地域、関係機関との連携、ネットワークづくり                      ・地域包括ケアシステム(医療、介護、予防、生活支援、住まい)構築に向け、各団体、機関と連携することによりネットワークの維持・強化を図る。                      ・高齢者支援を通して、地域課題や社会資源、ニーズを把握し、各団体・機関と情報を共有、検討することにより問題解決のプロセスを見出す。                      ・住民主体の支え合い活動について各地域での啓発、初回相談時の提案、各事業所(主に居宅)への周知をすることで、住民主体の活動の利用や参加ができるようにする。                      ※フォーマルサービスだけに偏ることなく、地域とのつながりも維持できるようなケアマネジメントが行われるよう啓発していく。</p> <p>2. 認知症になっても住みやすい地域づくり                      ・認知症の人、家族、地域住民が参加・協働できる場づくり。                      ・認知症の人(疑いも含む)が、必要な医療・介護等の支援が受けやすくなるよう各機関との関係づくり。                      ・正しい知識と理解が得られるよう普及活動を行い、地域で認知症等があっても、やさしく見守る意識を育て、地域での支え合いに広がるように取り組む</p> <p>3. 介護予防の推進                      ・介護予防に取り組む意義を理解し、社会参加や生きがいにつながるような普及・啓発をする。                      ・地域の中で、介護予防への意識を高め、取り組めるよう関係機関、団体と協働して、場づくり、担い手の育成、活動の立上げ等を支援する。</p>
区	松森	<p><b>【松森・鶴が丘地区】</b>                      ●支え手が高齢化、固定化している。世代間交流の機会を作り、若い世代の地域活動参加が増えるようにしていく</p> <p><b>【松陵地区】</b>                      ●松陵県営自治会では、住民同士の関わりが希薄であり、多問題を抱えている家族が顕在化しにくい                      ●毎年、役員が変わるため継続した関わりが難しい</p> <p><b>【地域共通】</b>                      ●既存のボランティア団体、サロン活動、サークルなどがあるが、横のつながりがあまりない為、ネットワークを構築し、様々な場面で連携し活躍できるようにする                      ●認知症に対する正しい理解ができていないと言えない                      ●複合的な課題を抱えた継続支援ケースへの対応が求められている</p>	<p>(1) 生きがいを持って地域活動へ参加できる介護予防の推進                      ●老人会、既存のボランティア団体、サロン、他サークルの活動の情報を発信、お互いの情報共有を行い、活動の拡充、次なる担い手の創出へつなぐきっかけづくりをする。</p> <p>(2) 認知症の当事者と家族を支える地域づくり                      ●認知症の正しい理解の普及啓発を継続                      ●認知症講話会(全地区開催)ぼっカフェ(第4月曜日)                      ●認知症の専門医療機関と連携し、当事者の会や家族会に参加し状況を把握する</p> <p>(3) 地域・関係機関との多職種連携・ネットワークづくり                      ●医療、介護、予防、生活支援、障害に関わる関係機関との連携の維持、強化                      ●住民主体の活動を地域住民へ幅広く周知するため、地域資源マップを活用する(第二版を発行予定)                      ●住民が集う機会の少ない地域に対する介護予防に配慮した居場所づくりの推進                      ・松森鹿島地区:集会所で多機関協力して(町内会、市民センター、事業所)サロンの自主開催へ向け支援する                      ・松陵東地区:集会所で介護予防教室を開催し地域のボランティアとサロン活動を展開する                      ・松陵県営自治会の集会所で、他機関と連携し多世代サロンを開催する                      ●松森市民センターと共催で、住民活動につながる企画を検討中</p>



区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
泉	向陽台	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率30%超、独居高齢者世帯40%と高齢者数の増加は顕著である。(後期高齢者2463人で昨年より105人増)、地域活動を支える民生委員、町内会長、地域役員などの高齢化も進んでおり、世代交代が急務となってきている。若い世代の担い手の創出が必要である。</li> <li>・認知症の相談件数(45件32人)も増え続けており、比較的若い世代の相談も増えてきている。認知症への正しい理解をしてもらい、当事者や家族が安心して暮らせる地域づくりをしていく事が必要。</li> <li>・多種多様な相談が増えており、地域包括支援センターやケアマネジャーだけでは対応できない相談も増えており、地域や関係機関とのネットワークづくりが不可欠となっている。</li> <li>・地域により活動内容に差がある為、改めて各地域の課題を抽出し社会資源などの創出等見える化を図る必要がある。</li> <li>・住み慣れた地域で健康で長生きが出来るよう、運動・社会参加など介護予防の必要性を継続的に周知していく。</li> </ul>	<p>総合相談・支援や権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援、認知症高齢者への対応などの包括的支援事業と併せて、介護予防事業や地域・関係機関との連携・ネットワークづくりなどを行い、高齢者がその尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指して、介護・福祉・医療などさまざまな面から高齢者に対する支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域・関係機関との連携・ネットワークづくりを行う。</li> <li>(2) 認知症施策の推進: 認知症に関する正しい知識と理解の普及啓発を行い、地域で認知症の人を見守る意識の醸成を図るとともに地域における支え合いの充実を図っていく。</li> <li>(3) 介護予防の推進: 地域の身近なところで介護予防・健康づくりに取り組むことのできる環境づくりを進める。</li> </ol>
区	南光台	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地開発し50年となる。一方で立地条件もよく、若い世代の流入も見える。1年間の人口統計では、総人口が125名のマイナスであるが、介護保険認定は+36名で3%増。高齢化率は26.76%で0.18%の増ではあるが、75歳以上では、2.96%の増となっている。認知症の理解や介護予防活動が重要となっている。</li> <li>・認知症サポーターステップアップ講座(21名の卒業生)、圏域会議でパートナー講座(参加者45名)を実施。参加者は認知症の理解と合わせて当事者の話しを直接聞くことにより、より認知症を理解し地域全体で支える事の大切さを実感している。この積み重ねが大切であることを確信した。</li> <li>・4つの老人クラブ・地区社協・様々な支え合い活動、医療・介護のサービス事業所が多くあり、これまで以上に各活動団体の連携・ネットワークによる地域包括ケアの実現が必要。</li> <li>・防災活動に町内会格差がみられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在行っている自主G・集い・サロン活動等の事業継続・充実で包括の周知拡大は勿論、地域・関係機関との連携、ネットワークづくり、認知症対応、介護予防の推進に取り組む。</li> <li>・認知症の正しい理解へ向け、各町内会やサロン等での認知症パートナー講座の開催に重点を置き、地域づくりと早期診断治療の啓発を強める。</li> <li>・介護予防教室や認知症の学習会(専門医を囲み)の参加目標を多くし、宣伝を強化、介護予防の大切さの普及に努め各地域で意欲的に取り組む。</li> <li>・把握した地域の社会資源や様々な情報を職員間で共有し、活用すると同時に、包括たより等で広報し効果的に住民やケアマネ等関係機関に提供する。今後も情報収集し充実させていく。</li> <li>・民生委員や地区社協との協力共同の強化で、早期相談と解決に取り組む。地域課題の解消に取り組む。</li> <li>・圏域会議で防災・減災を学び、地域防災に何が必要なのか共有をはかり地域課題を考える。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
泉	八乙女	<p>【認知症など精神面において問題を抱え、課題が複雑化しており、支援に時間を要する高齢者が増加】</p> <p>特に黒松地域においては、人口については減少しているが世帯数は増えており、独居や高齢夫婦・核家族等少人数世帯になっていることが窺える。実状として家族の支援が手薄だったり、期待できないケースも多い。</p> <p>年齢別の割合を見ても、高齢化率は上がっており、実人数からも、高齢者は増加、特に80歳以上の高齢者が増えている。同様に、八乙女地域においても、高齢化率は年々上がっており、80歳以上の高齢者が特に多くなっている。今後、より相談が増えると思われる。</p> <p>【地域各団体の後継者不足】</p> <p>特に老人会においては、後継者がいないため、高齢の代表役員が会の運営を担っているのが現状。町内会や民生委員・地区社協においては、少しずつではあるが、多少なりとも若い世代の方に変わりつつあるが、そのあとに続く後継者がいないため苦慮している。八乙女小地域において、空き家の跡地に新しく複数の家が建つなどし、若い世代の入居が増え、子供の数は増えたが、親世代は共働きも多く、また、地域活動に関わることがほとんどない状況であるため、今後いかにして、若い世代に地域との関係性を持ってもらい、担い手となってもらうか、工夫したアプローチが必要。黒松小地域も、新築住宅がみられるようになったが、人口増とはなっておらず。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人支援においては、支援の方向性をしっかりと検討し、相談内容によっては職員の複数対応や、民生委員など地域の協力も仰ぎながら、複雑化している相談に、しっかりと対応していく。</li> <li>・個の支援から地域支援に至るまで協働できるように、多職種間で顔の見える関係を構築する。</li> <li>・運動自主グループやサロンなどの地域活動のフォローや、地域行事への参加・協力、各団体との共催事業を通して、次世代の担い手の発掘、そして、地域活動への結び付けを行う。</li> <li>・様々な機会を通じて、介護予防の考え方や実践方法について周知し、また、認知症や権利擁護についても考える機会を提供し意識付けを図っていく。</li> </ul>
区	虹の丘・加茂	<p>圏域の高齢者数は約5,300人で、高齢化率は30.61%である。一つの中学校区ではあるが、2つの小学校区で成り立っている。造成から40年近くなる2つの団地は団塊の世代が多く高齢化率は43%を超えるが前期高齢者が多い。また高齢化率が9%～19%と低めの商業地区で賃貸の集合住宅の多い地区である。そのため一つの圏域と捉えにくい状況である。高齢化の問題のみでなく、高齢者と同居家族が就労していないことや障害をかかえていること、子ども育成の活動も困難となっている状況がある。町内の活動として積極的に高齢化に取り組む地域もあれば、次代の担い手不足から町内活動を辞める町内もある。平成27年に圏域に加わった復興公営住宅へは、区役所・近隣の高齢や障害の施設関係者が合同で関わり、住民同士がつながる機会を提供していくことで、少しずつ役員による町内会活動が進んでいる。しかし復興公営住宅の住民全体としての活動にはつながっていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防運動自主グループの活動が長年となっていることでの、参加者やサポーターの世代交代が上手く進むように継続した支援をするとともに、新たな地域でも介護予防に取り組む環境作りを進めていく。</li> <li>・認知症カフェに当事者や家族が参加するだけでなく、世代を超えての参加ができるようにする。そして、住民が運営に参加することや、新たなボランティア活動の創生にもつながり、認知症があっても地域で暮らしていくことが可能な町になる働きかけをしていく。</li> <li>・地域のニーズを把握することや、個別ケースの検討をする機会を作ることで、住民自らが地域の課題に気が付き解決に向けた取り組みができるように支援していく。</li> <li>・圏域内の医療機関や介護・障害の施設等と地域住民とのネットワークを強化する働きかけをしていく。</li> </ul>
	長命ヶ丘	<p>団地造成から約45年、圏域内の人口は約7600人、うち高齢者は約3000人となっており、高齢化率は40%以上となっている。中でも49%を超える町内会もある。今後、後期高齢者は毎年約150人～230人増加が予想され、世帯数は減少傾向にある。一つの小中学校区であり町内会活動の組織の歴史も長く学校との連動や夏祭りなどは活発である。しかし役員世代交代が進んでおらず町内によっては長年役員を継続する町内と数年で交代する町内もあるため高齢者の問題に取り組む意識の違いはあるものの表立って話し合いはされていないのが現状である。またアパートと戸建てが混在しており生活の格差がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防自主グループの活動が継続できるよう支援をする。</li> <li>・認知症カフェの継続と新たな開設場所を検討する。</li> <li>・交流カフェ等でのボランティア活動への声かけを行う。</li> <li>・圏域内での医療機関や介護、障害、学校機関等と地域住民ネットワークを強化する働きかけを行っていく。</li> <li>・認知症の方やその家族を地域で支える必要性を理解してもらえる普及啓発を行っていく。</li> <li>・ケア会議を通じ住民自らが地域の課題に気が付き解決に向けた取り組みができるよう支援していく。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
泉 区	根 白 石	<p>・泉西二地区社会福祉団体協議会立ち上げに際し、館連合町内会、地区社会福祉協議会と関係に溝ができ、地域ケア会議等が開催できておらず、地域作りが円滑に行えていない。</p> <p>・サロンの立ち上げを積極的に行っているが、中には参加者が減少し、サロン活動の継続が困難になっているグループもある。継続した活動ができるように支援が必要。</p> <p>・介護予防教室やサロン等、参加しやすいように各地域の集会所で催しを開催しているが、特に根白石地区はエリアが広く、交通も不便な為、参加できない方も多い。移動支援のシステム作りが必要。</p> <p>・認知症に関する理解が十分ではなく、認知症の人への支援が適切に行われない。また、行動・心理症状等が発症した場合、対応が困難になり孤立する可能性が高い。</p>	<p>●「公益性」「地域性」「協働性」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公正で中立性の高い事業運営を行う。</li> <li>・泉西二地区社会福祉団体協議会や地域ケア会議、その他地域で行われている活動等を通じて、地域住民や関係機関、サービス利用者の意見を幅広く汲み上げ、日々の活動に反映させるとともに、地域が抱える課題を把握し、解決に向けて積極的に取り組む。</li> <li>・専門職が専門性を活用しながら相互に情報共有し、連携・協働する「チームアプローチ」を実践することで相談支援や地域課題に対応する。更に、地域の保健・福祉・医療の専門職や民生委員等の関係者、社会福祉協議会等の関係機関と連携を図る。</li> </ul> <p>●高齢者の自立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の在宅生活延伸の為、関係機関とのネットワークを構築し、連携支援を行う。</li> <li>・地域資源を積極的に活用する為、住民主体の活動を支援する。</li> <li>・地域住民の社会参加として、ボランティア活動を側面支援するなど地域で地域の高齢者を見守る地域力を育成する。</li> </ul> <p>●認知症施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見、早期治療に繋がるように関係機関とのネットワークを構築し、高齢者本人や家族、民生委員や地域住民、関係機関が相談しやすい体制づくりを行う。</li> <li>・認知症への理解を深める普及・啓発の取り組みを行う。</li> <li>・行方不明者の早期発見・保護を含めた体制整備を図る。</li> <li>・認知症の容態の変化に応じた支援を行う。</li> <li>・認知症の人の生活の質の改善、介護者の負担軽減などの支援に取り組む。</li> </ul>

区	地域包括支援センター名	現状・課題	基本方針
泉区	南中山	<p>《人口動態》                      圏域全体で令和1年10月1日現在、総人口15,163人に対し、65歳以上3,449人、高齢化率22.75%であり、昨年度と比較し1パーセントほど上昇。認定者率11.65%であり前年と比べ0.96%ダウン。前期高齢者がまだまだ多い。                      町名別では南中山3丁目が高齢化率40.24%で最高であり、これから後期高齢者となる70歳代前半の人口も町名別では最も多い。同2丁目、4丁目も30%を超える。北中山1丁目2丁目も高齢化率30%台に突入。                      西中山地域は高齢化率8%台とわずかに増加。子ども～40代までの層が多く、障害のある子供をもつ世帯も多く暮らしているとの情報がある。                      今後も継続して各地域特性に応じた地域支援計画が必要になってくる。</p> <p>《立地環境》                      丘陵地に造成された団地の為、坂が多い。商店や医療機関等、社会資源に恵まれている地域(南中山)と、社会資源が少ない地域(北中山・西中山)の二極化。                      ⇒高齢になり外出や生活の支障につながる可能性がある。                      ⇒バス路線が通らない地域(北中山1丁目)がある。                      ⇒高齢者の自動車運転増加の懸念。                      ⇒区保健師より血圧要治療者とメタボ率が高いとの情報を得た。日常的に車に頼りがちな生活を送っている事や運動の機会が不足している可能性がある。                      ⇒立地上、住民の防災意識はこれまで大きな被害に見舞われなかったこともあり、身近に感じられにくい印象がある。</p> <p>《社会資源》                      ・圏域内に公園が14ヶ所(水飲み場:14、ベンチ:14、トイレ:1、公衆電話:3)                      ⇒高齢者の身体特性上、ある程度動けても気軽に外出しにくい環境。                      ・南中山市民センター、北中山コミュニティーセンターを拠点に連合町内会、地区社協が活動を実施。他、集会所南4ヶ所、北2ヶ所(うち1ヶ所児童センターに貸している)、西1ヶ所。活動場所が減少している。集会所によっては、駐車場がない、畳敷、椅子が使えない等身近な所で集う場所が少ない。                      ・町内会のイベントや地区社協サロンが活発だが、参加者の固定化、高齢化、新規加入者がいない状況。                      ⇒地域活動の停滞。担い手不足。                      ・令和3年にかけて西中山地区社会福祉協議会発足予定だが、情報が少ない。                      ⇒こまめに情報を収集し、包括との連携準備を整えていく必要がある。</p> <p>《相談傾向》                      ・隣接する圏域(根白石、長命ヶ丘)と関連する相談がある。適宜連携等が必要。                      ・8050問題やアルコール依存、その他多問題を抱える相談が顕在化。                      ⇒事例によっては、より専門的な機関と連携することも必要。                      ⇒縦割りではなく、機関同士が柔軟に横の連携体制をとる事が重要。                      ・介護保険につき医療や認知症の相談が多い。                      ・西中山では若い世代の転入が多いため町内会の加入率が低く、情報が伝わり難い。                      ・連合町内会脱会に伴う、住民間の壁や一部活動の支障がある(北中山3丁目)。</p>	<p>■地域や関係機関との連携・ネットワークづくり                      ①PDCAサイクル(1. 地域の現状把握、2. 環境的要因の抽出、3. 目的取組目標の設定、4. 取組手法の選択、5. センターの役割の選択、6. 取組効果の確認)の循環を意識し、各関係機関とのネットワークづくりを継続的に行い、個別のケースと地域支援を循環できるよう地域課題の把握、地域関係機関との共有を行い、地域課題に地域住民自ら取り組めるよう動機づけを推進していく。                      ②世帯での複合的課題への対応を見据え、他分野、他機関との情報共有、役割分担を確認することで効果的な支援ができるよう話し合いの機会、連携体制づくりを進めていく。</p> <p>■認知症対策 :認知症の方とその家族を支える体制作り                      ①地域版ケアパスを活用し、相談窓口の周知・早期相談・早期対応を行いながら、当事者が社会参加を継続できるよう相談支援及び環境整備を推進する。                      ②現在協働・単独で行っているカフェを継続し、居場所づくり、当事者、家族も相談できる体制をつくる。                      ③認知症サポーター養成講座を広め、正しい知識を学ぶ機会をもち、地域の理解者を広める他、実践活動を視野に入れたアプローチについて啓発していく。</p> <p>■介護予防の推進                      ①生活環境や相談状況を踏まえ、介護予防に対する意識づけ・動機づけを行う。また担い手の創出も意識した教室の開催、個別のケアマネジメントを行う。                      ②自主グループ・サロン等既存のグループの状況を把握し、活動継続支援の他、新たな自主グループの立ち上げを意識したアプローチを試みる。</p>